令和4年度　第2回史跡小牧山整備計画専門委員会議事録

1　会議の名称

　令和4年度第2回史跡小牧山整備計画専門委員会

2　開催日時

令和4年7月6日（水）　午後3時00分～午後4時30分

3　開催場所

小牧市役所　東庁舎4階　本会議用控室

4　議題

小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装について

5　公開又は非公開の別

公開

6　出席者

〔委　員〕麓委員長、中井委員、播磨委員

〔助言者〕文化庁文化資源活用課　中井文化財調査官

〔事務局〕石川教育部長、伊藤教育部次長、武市小牧山課長、浅野史跡係長

　　伊藤主事補

〔業　者〕株式会社トータルメディア開発研究所　齋藤氏、六川氏

〔傍聴者〕なし

7　会議の結果

【事務局（武市）】

定刻となりましたので、ただいまより令和4年度　第2回史跡小牧山整備計画専門委員会を開催いたします。

会を始める前に、ご欠席者のご報告をさせていただきます。本日、赤羽委員、仲委員よりご欠席のご連絡をいただいております。

本委員会は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき会議を公開としていま

す。本委員会の議事は音声録音し、議事録は、発言内容、お名前とも市ホームページにて公開しますのでご承知おきください。

続いて、会議資料の確認をいたします。資料が当日の配布となりまして、大変申し訳ありません。机上に次第と本日の資料といたしまして、資料1－1「小牧市歴史館展示改装全体工程表」、資料1－2「小牧市歴史館展示改装実施設計」を置かせていただきました。次に、前回行いました令和4年度第1回史跡小牧山整備計画専門委員会の会議録も置かせていただいております。内容確認の回答書、返信用封筒の入った封筒も置かせていただいておりますので、7月15日までにご確認いただき、回答書の返送をお願いしたく思います。また、昨年度にご審議いただき作成いたしました史跡小牧山基本計画も配布させていただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに教育部長の石川よりご挨拶申し上げます。

【事務局（石川）】

本日はお忙しい中、また足元の悪い中、第2回史跡小牧山整備計画専門委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の史跡小牧山整備計画専門委員会は、前回6月1日に開催をさせていただいてから短い期間での開催となります。このことにつきましては、前回の委員会において、本日議題となります小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装についてを報告としてご説明をいたしましたところ、委員の皆様方から、しっかりと議題に取り上げてより良い展示改装にしていくべきとご指摘をいただきました。小牧市への熱いエールと受け取っております。ありがとうございます。本日は議題として本委員会を進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

また、先日7月1日に東京にて全国史跡整備市町村協議会役員会が開催されました折、文化庁中井調査官とお打ち合わせをさせていただきました。ありがとうございました。その折に、小牧市歴史館の1階の小牧市の歴史については市民に分かりやすい形で設置していきましょうということでお言葉を頂戴しております。どうもありがとうございます。そして前回委員の皆様方から頂戴いたしました御意見を踏まえまして、当委員会の麓委員長並びに文化庁の中井調査官はじめ、委員の皆様方にご相談、ご指導を賜りました上で、本日の資料として提出をさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。改装までが非常にタイトなスケジュールの中、私ども職員も頑張っております。本日は委員の皆様から貴重な御意見を賜りながらご審議いただきますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局（武市）】
　また、本日、小牧市歴史館展示改装実施設計の受注者、株式会社トータルメディア開発研究所の担当者が出席しております。

【業者（六川氏）】
　株式会社トータルメディア開発研究所の六川と申します。よろしくお願いいたします。

【業者（斎藤氏）】
　齋藤と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（武市）】
　それでは、以下の議事進行は、麓委員長にお願いします。

【麓委員長】
　それでは、今日の議題は、小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装についてです。まず事務局から説明いただきまして、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思います。それでは事務局から説明をお願いします。

【事務局（武市）】
　それでは、議題小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装につきまして、説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。
　前回6月１日に開催をしました第1回専門委員会におきましても説明させていただきましたが、史跡小牧山では、昨年度から、令和7年度までの5ヵ年をかけて行うこととしております小牧山山頂の主郭地区の史跡整備によりまして、復元した石垣などが間近になるような状況になって参ります。
　また、令和5年の NHK 大河ドラマで徳川家康の生涯が取り上げられることから、小牧・長久手の戦いの舞台として、多くの方が小牧山に来られる機会が想定されます。こうしたことから、この機を生かして、小牧山を積極的に PR し、小牧山の史跡としての価値をより多くの方に知っていただく機会ととらえ、今年度において、小牧山の中にある小牧市歴史館と小牧山城史跡情報館の展示をリニューアルしていくこととしたものです。
　初めに、歴史館の展示改装のスケジュールにつきまして、ご説明をさせていただきます。

資料1ー1をお願いいたします。小牧市歴史館展示改装全体工程表です。表の1段目、業務工程とありますが、現在、8月末の完成予定を目指しまして、実施設計業務を委託しております。設計完了後、契約の手続きを行い、10月から3月までの期間において、展示制作業務を委託し、令和5年4月からのオープンの予定をしております。

現在は実施設計の工程中、展示計画を決定していく段階であり、本日は改めて全体の方向性に基づいた訴求ポイントや、来館者の体験ストーリー、展示構成やゾーニングにつきまして、ご審議をいただきたいと思います。

なお、前回の委員会では、この内容は議題とさせていただいておりませんでしたが、前回いただきしましたご意見に基づいて本日の資料につきましては修正したものとなっております。

また、本日、展示計画についてご審議いただき、大きな修正がなければ、市内部での意思決定をした上、展示設計に進みたいと考えております。

その後、10月から展示製作に入る予定ですが、個別監修を行わせていただいた上で、10月と1月に専門委員会を開催させていただき、展示解説文やグラフィック画像につきましても、ご審議をお願いする予定としております。このようなスケジュールで進めて参ります。

それでは、続きまして具体的な実施設計の内容について資料の1－2をお願いいたします。小牧市歴史館展示改装実施設計です。2ページをお願いします。

まずは、歴史館で求められる視点の整理をしております。織田信長が小牧山に自ら初めて石垣の城を築き、小牧山南麓に城下町を整備したこと、小牧・長久手の戦いにおいて、織田信雄・徳川家康連合軍が陣城としたこと、この2点におきまして、小牧山は日本の歴史の重要なターニングポイントとなりますが、この小牧山の特徴は尾張平野にあり、山頂からはその平野を一望できるということになります。この特徴を踏まえまして、歴史館では、小牧山に関わった武将たちを、歴史的背景や周囲の城との関係性、また、実際に歴史館4階の展望室から見える眺望を活かした当時の尾張平野の様子などを紹介することにより、小牧山の歴史を紐解いていきたいと考えております。

また、歴史館に大切な機能といたしましては、令和2年3月に策定した史跡小牧山保存活用計画や令和4年3月に改訂しました史跡小牧山整備基本計画におきまして、小牧山城の体験学習施設として活用することとしております。また、小牧山を上った後の休憩スペースや、先ほど申し上げました、4階展望室から眺望を楽しんでいただけることも大切な機能であります。さらに山頂に立地することから外から視認性が高く、南麓にありますれきしるこまきと比較しまして、1.5倍以上の方に入場いただいているという現状もございます。こうしたことも踏まえまして、小牧山に遊びに来た方、小牧市や小牧の歴史を学びに来た方にとってわかりやすく、興味のわきやすい展示や解説とすることが必要と考えております。

以上の基本的な考え方に基づき、小牧山に来てよかったと思っていただけるような、心を動かす展示となるよう、1階から4階展望室へ向けて、展示ストーリー・展示ゾーニングを検討いたしました。なお、1階につきましては、冒頭部長から申し上げましたが、多くの方を歴史館でお迎えするスペースといたしまして、また、文化庁中井調査官のご指導いただき、歴史に触れるコーナーを設置することにより、小牧山城史跡情報館との区分もしたところであります。また、前回の委員会でも申し上げましたが、今後の方向性といたしまして、小牧市の歴史民俗資料につきましては、市内の小学生や年配の方もアクセスしやすい場所に、改めて展示してくことについて、来年度以降取り組むことを計画しております。

それでは、現状につきましては、今回、実施設計の受託者であります株式会社トータルメディア開発研究所の六川氏からご説明させていただきます。

【業者（六川氏）】

それでは、私から展示ストーリー、ゾーニング、最後に演出についてお話いたします。

先ほどもお話にありましたように、小牧山の特徴として大切にしていきたいポイントは2つあると考えています。1つ目は織田信長が築城して以降、日本の歴史のターニングポイントにおかれた点です。2つ目は展望室から見える濃尾平野を見渡せる眺望です。
この2点から、全体の方向性つまり今回の改装のコンセプトを「立地特性を活かした戦国時代の小牧山の歴史を追体験する展示空間」としました。

一方で、来館者の行動を見てみると、86mある小牧山を頂上まで登って息を切らしている、そんな光景も目にします。

この小牧山としての特徴と、小牧市歴史館が建つ場所の特性も考えて、展示構成を検討しました。訴求ポイントをご覧ください。

1階は「小牧市についての興味を喚起する空間、2階から4階にかけて戦国武将らが小牧山から抱いた野望を想像したくなる、そんな気持ちを高める展示構成がこの歴史館のポイントです。

来館者の体験ストーリーとしては、まず1階では「小牧に触れる」としており、
小牧山を登ってきてくださったお客様をおもてなしするフロアとして考えています。タイトルは「小牧の歴史を楽しむ」で、小牧山に遊びに来た人も、歴史好きの人も、まずはほっと一息休んでいただきながら、小牧について親しむ空間としていきたいと思います。

2階は「歴史から紐解く」としており、小牧の戦国時代を対象にして、戦国武将たちの野望や戦略に迫り、小牧山が戦国武将たちに選ばれた理由を紐解きたいと考えています。登場人物と小牧の関係を歴史から見ていく点が、れきしるこまきの違いになると考えています。

3階は「人物から紐解く」としており、2階で登場した人物に焦点を当てて、人生の岐路における彼らの選択や、彼らが選んだ戦道具などを紹介します。

4階は「眺望から紐解く」としております。山頂にある展望室が歴史館ならではの機能だと考えています。小牧山から見える景色を見て、「信長は岐阜城をどのように見ていたのか？」や「信雄や家康はどのように秀吉と対峙しのか？」と来館者自ら想像を膨らませて、共有できる空間を作りたいと考えています。フロアを上るごとに自分事として戦国時代の小牧山にいた人物としての気持ちが高まっていくような展示構成を考えていきます。

ここで次のページにめくっていただいて、各フロアのゾーニングと導線のお話しをしてまいります。

1階は「小牧の歴史を楽しむ」です。小牧山城を登ってまずは一息つきながら、小牧の歴史や企画展示を楽しんでもらい、小牧への興味を喚起します。1階は大きく3つのゾーンに分かれています。

入口入って左側、「1－1小牧の歴史に親しむ」は、小牧の歴史に触れるスペースです。山を登ってきた方々が休憩しながら小牧の歴史の中で特徴的な出来事に触れていただきます。平松茂さんや徳川義親さんの銅像と小牧との関わりもこちらに配置します。

図面右奥にあるのが1－2はフォトスポットです。こちらは既存のスペースのままですが、楽しみながら戦国武将への興味を喚起する役割を持ちます。

図面右下にあるのが1－3は企画展示スペースです。フレキシブルな使い方ができる空間として設計します。続いて2階「戦国武将たちの小牧山」です。織田信長、織田信雄、徳川家康はそれぞれの野望や戦略の中で小牧山を拠点とした理由を「立地」「城づくり」「戦術」から紐解きます。武将たちが戦国時代に天下人になるべく戦った戦略を、来館者に考えてもらえるような展示を設計します。

4ページ目に参ります。まず、図面中央の階段を上ると初めに見えてくるのが2-0「戦国時代の小牧山」です。戦国時代に小牧山に関わった人物とその時代の代表的なイメージを演出します。そのまま反時計回りに進むと、「2-1 城づくりと城下町整備にみる信長の野望と戦略」のコーナーに入り、織田信長の城づくり、城下町整備、戦術を切り口に、信長がなぜ小牧山に拠点を置いたのかについてエピソードを展開します。続いて、「2-2 小牧・長久手への道 －秀吉 vs 信雄－」ミニシアターに入ります。ここでは信長が亡くなってから小牧・長久手の戦いが起きるまでの歴史、秀吉と信雄が敵対していく様子を紹介します。

ミニシアターを抜けると、「2-3 小牧・長久手の戦いにみる信雄と家康の野望と戦略」のコーナーに入ります。小牧市歴史館ならでは紹介として、小牧の周辺で起きた戦いや出来事などを交えながら、時代のターニングポイントとなる戦いについて紹介します。

2階の最後に見えてくるのが「2-4 地形からみる戦略・戦術」小牧山を中心とした濃尾平野を示すマップや、映像演出で、小牧山と周辺地域を信長や信雄、家康がどのように捉えていたのか、「立地」を視点に考えます。

続いて3階です。資料右手をご覧ください。3階は「戦国武将たちの選択」としています。小牧山城に関わってきた武将たちの人物像や天下統一を目指す中で起きた出来事について質問形式にしたコンテンツや、武将たちが手に取った武具の紹介など、人物と人物が選んだ選択に焦点を当てた空間とします。

図面でご説明いたしますが、階段を上がって最初に見えてくるのが、「3-1 武将の人生 10の選択」です。これが戦国武将の人生を質問形式にしたコンテンツです。振り返ると「3-2 戦国時代の戦道具」があります。武将が戦の時に手にした武具を紹介します。

資料左手をご覧ください。4階は「小牧山からの眺め」としています。現代の景色から信長、信雄、家康らが眺めていた景色を想像したくなるような展示を考えます。4階に上って展示室奥に見えるのが、「4-1 天下人たちがみた景色」です。現代の景色にポイントを落とし、戦国時代に見えていた景色を想像するためのお手伝いをしていきたいと考えています。4階中央には「4-2 小牧山城からの距離」と題した床面マップを設置しています。

織田信長、織田信雄、徳川家康はそれぞれの野望や戦略の中で小牧山を拠点の一つにしました。武将たちが小牧山を拠点とした理由を「立地」「城づくり」「戦術」から紐解きます。武将たちが戦国時代に天下人になるべく戦った戦略を、来館者に考えてもらえるような展示を設計します。

ここからは各コーナーの演出方法をお話していきたいと思います。

まず「2－0 戦国時代の小牧山」です。ここは1階から登ってきて最初に目に入るので、展示室の顔にもなる空間です。小牧の戦国時代を語る上でメインの登場人物をグラフィックで演出したり、一部映像投影を加えて時代イメージを演出したりことで、動きのあるグラフィックを考えています。

次に「2－1 城づくりと城下町整備に見る信長の野望と戦略」です。このコーナーのメインはイラスト中央にある壁面グラフィックです。信長が小牧に城と城下町を作ろうと思った経緯と小牧を拠点にした活動を、絵巻物風にお示ししたいと思います。ただ時系列で示すのではなくて、エピソードやビジュアルがパっと目に入るようにグラフィック構成を作ることで、歴史に近くない人でも信長と小牧のものがたりを追いやすくなるよう考えています。また、イラストの右手にあるのは「信長の昔語り」です。モニターに映った信長が、自分の身の上話を語ることで、このコーナーの導入を作りたいと思います。

信長の野望と戦略コーナーを抜けると、「小牧・長久手への道 秀吉 vs 信雄」というミニシア

ターに入ります。着席型のシアターで、壁面に大きく映像を投影します。3分ほどの映像で、信長の死の後、羽柴秀吉と織田信雄が対立関係になり小牧・長久手の戦いに向かっていく、歴史の大枠を来館者に知ってもらうための空間です。

シアターの次はいよいよ「小牧・長久手の戦い」のコーナーです。ここでは、「2-3　小牧・長久手の戦いに見る　信雄と家康の野望と戦略」としています。資料下をご覧ください。コーナーに入ってすぐのところには、グラフィックパネルで「信雄・家康連合軍の誕生秘話」をご紹介します。そして次にイラストの右手にあるモニターで「徳川家康の昔語り」で肖像画を用いて家康の身の上話を語ります。そして、イラスト中央の壁面グラフィックには、小牧・長久手に関わる信雄と家康2人のエピソードを絵巻物のようにお示ししたいと考えています。

2階の最後には、「2-4　地形からみる戦略・戦術」という、小牧山城と周辺の城や櫓を地形からみる映像コンテンツを考えています。濃尾平野の中心に位置している立地関係や、小牧山だけがポコッとでている地形が、信長の戦略や信雄・家康連合軍の戦術にどのように活きてきたのか紹介するコンテンツを紹介します。小牧・長久手の戦いのソフトでは、2つの軍の砦の配置や、長久手で決戦するまで、引き返す行路などもここでしっかりとお見せしたいと考えています。仕様はまだ検討中でございますが、ソフト1，2、3が効果的に演出できるように、検討を進めております。

3階です。資料右下の画を見てください。このフロアは実質踊り場くらいのスペースしかないので、2階から4階を結ぶ楽しめる空間として考えています。

「3-1武将の人生　10 の選択」では、大型のタッチパネルを用意し、人生ゲームのように武将の人生に起きた大きな出来事を Q&A でみてもらうコンテンツです。「織田信長」「織田信雄」「徳川家康」の3人の選択ゲームを用意します。ゲームの内容は、初めに3人の中から人物を選び、問題が出てきたら、3つの選択肢の中から正解を選びます。正解すれば解説や当時の資料などを表示して、間違っても正解に導くように進められるゲームにしたいと思います。

さて、壁際には「3－2　戦国時代の戦道具」という壁面グラフィックを考えています。切り出しパネルで立体感を付けたり、戦国時代の戦道具を推測される実寸大でお見せすることで、現代の感覚とは異なる当時の道具や様子を体感してもらい、ちょっとしたフォトスポットにもなるコーナーにしたいと考えています。

最後に4階です。資料右上にある絵を見ていただくと、空間の奥にあるモニターが「4-1天下人たちがみた景色」というコンテンツです。大き目なタッチモニターに、展望室から見える景色を360°　パノラマ映像で楽しんでもらいます。「眺望から見える小牧の文化財」「信長が見ていた景色」「信雄と家康が見ていた景色」の3つのソフトを用意しようとしています。

モニター内のコンテンツでお示ししている絵をみていただくと、映像の中に吹き出しがあると

思います。これをタッチすると現在の景色と重なるように解説や画像がポップアップで出てきます。現在も残る小牧市内の文化財の位置や表示されたり、信長の時代や、小牧長久手の戦いの時に何が見えていたのかと想像しやすくしたりする、お手伝いができるコンテンツになるよう考えています。

もう一つは床面に貼っている航空写真です。小牧山を中心として半径30 kmほどの範囲を示し、小牧山から岐阜城まで、長久手や清州までどのくらい遠かったのかわかることで、現代人が「歩く」距離と、当時の人々が歩かなければいけなかった距離の違いを実感してもらいたいと思います。

最後に来館者に展望室から見える景色を、当時の武将たちはどのように見ていたのか、想像を膨らましてもらいたいと思っています。

このように1階～4階を通して、冒頭に申し上げた「立地特性を活かした戦国時代の小牧山の歴史を追体験する」展示を作っていきたいと思います。

以上が、小牧市歴史館の提案となります。

【事務局（武市）】

れきしるこまきの方も続けてご説明させていただきたいと思います。

同じく今年度に同じく予定をしております小牧山城史跡情報館の展示改修につきましてもご説明をさせていただきます。資料は現在、特にございませんが、お手元にれきしるこまきのパンフレットを配布しております。

れきしるこまきにつきましては、大きく2点の展示追加を計画しております。

1点目でございますが、パンフレットを開いていただきまして、真ん中のページの下のところに常設展示入口、エントランスということで、エントランスの壁面に小牧山の四季や動物、植物の写真などでお客様をお迎えをするイメージ写真のグラフィックパネルが飾られております。こちらは小牧山の四季と通年ということで、5種類の絵柄がございまして、季節によって展示替えをしているところでございます。

こちらに小牧・長久手の戦いにイメージしたグラフィックを追加していきたいと考えております。もう1点としましては、常設展示に入りましてすぐのところに城郭シアターがございますが、こちらはれきしるこまき全体導入として位置付けておりまして、現在は3人の天下人と小牧山の関わりを2本30秒で解説する映像と、床面を利用して、3人の天下人のゆかりの城を紹介する映像をご覧いただけます。こちらに小牧・長久手の戦いの全体像を3分程度で解説する映像を追加していくことを考えております。

こちらの2点を今後追加していきたいということで計画をしまして、現在仕様用を固め、契約

の準備を進めている状況であります。こちらにつきましては、10月の専門委員会におきまして、概要をご審議いただけるよう進めていく予定であります。
説明につきましては以上です。

【麓委員長】
　はい。それでは、山頂にある歴史館と山麓にある小牧山城史跡情報館、この機能的な違いがどこにあるのかということも議論し、それで、そういう機能的な違いを踏まえた上で、今回の歴史館の改修が考えられなきゃいけない、そういう話があったと思いますが、資料1－2の小牧市歴史館展示改装実施設計の1ページ目のところに、歴史館とれきしるこまきの展示の構成の捉え方があり、ここに両者の役割の違い、オレンジで塗られているのが歴史館、そしてグレーがれきしるこまきで、主としてれきしるこまきの方は、ガイダンス施設として作られたということもあって、発掘成果を元に、小牧山城築城に関する石垣の模型や成果の紹介、そちらに重点を置いている。
　今回改修しようとしてる歴史館は、むしろ、そういう城の作り方ではなくて、登場人物を中心に、立地と城、戦術ということを説明したいということで、その両者のすみわけを考えているということで、今説明があったと思います。
　それでは、委員の方で質問とかご意見等をお願いしたいと思います。

【中井委員】
　ちょっと質問なんですが、1階の展示スペースが色々とあったと思いますが、この1ー3の企画展示スペースというところ、これ、企画展示はもう絶えず企画展示をしていくっていうことなのか、ある程度常設的なもの置いといて、何かあるごとに企画展をするのか、これはちょっとどちらのように考えているのですか。

【事務局（浅野）】
　こちらの企画展示スペースにつきましては、基本的に常に何らかの企画をやっているっていうことを考えております。年に1回なのか、2回なのかはこれからなんですけども、何かしらの企画をしているスペースということで考えております。

【麓委員長】
　その企画展の内容が変わる途中の何日間かの準備期間はここを見せていないということ。

【事務局（浅野）】
　そうです。

【麓委員長】
　常に何らかの企画の展示を続けていくと、それでいいですね。たまに企画展をするのではなく。

【事務局（浅野）】
　その企画展の期間が、例えば年2回でしたら、春夏、秋冬かもしれませんし、もう少し短いかもしれませんが。

【麓委員長】
　いや、ほとんどの期間が企画展以外の方が長かったら、その間どうするんだっていう、そういう質問だと思いますから。常に新たな企画展。企画展はかなり大変ですよね。でも、そういうことをここでちゃんとやり続けていくんですね。

【事務局（浅野）】
　おっしゃる通り企画展といいましてもなかなか準備から設置から時間がかかりますので、ずっとと言いましてもやっぱり期間を延ばしてということになってしまうと思うんですが、なるべく間の期間をなくすような展示をしていく。

【麓委員長】
　このスペースを閉めておくわけじゃなくて、何らか使うわけでしょ。

【中井委員】
　ただ、今のご説明だと例えばですね、春の小牧市っていうのを、3月4月5月やったら、6月7月8月の企画展をやる。そういう形の企画展で長いものを続けていくっていう、そういうことというような風に思いました。だから大変かなと。ある程度の常設を置いててそれで企画展の時に変えるという、そういうやり方もあるし、今おっしゃったようにずっとそれでやると、結構企画を考えるというのは大変かな。ただ、来館者からしたら、ああいつ来てもここはみんな一緒だっていうのが変わってるっていうのはそれはそれでいいとは思います。一応そういう連続性でやるとか。
　ついでに、それでいうと前回でも話したように1階のところを、やっぱそこも戦国に特化するの

ではなくて、もうちょっといろいろ展示をするということでしたから、これは要望としてはやはり、戦国だけじゃなくって、小牧市のいろんな歴史的な側面が出せるようなことを、できるだけやって欲しいなって、これは要望です。

【麓委員長】

今回の歴史館の改装の大きなテーマが、小牧・長久手の戦いにスポットを当てたヴィジュアルな展示になりそうなんですけど、その点について、今のこの工程表からいくと、展示計画が今回ほぼ決まって、実際の設計図面ができるのはまだ後ということですが、これについて、何か注文というか、8月までにこういう点に特に注意して、制作してほしいとかご要望とかありましたら、お願いしたいと思います。

【中井委員】

よろしいですか。あまり言いたくないんですけど、1ページの歴史館とれきしるこまきの展示の構成の捉え方というのは苦肉の策としか思えなくて、どう違うんやってのは、いまだによくわからない。やっぱりれきしるこまきというのは愛称で、本来は小牧山城史跡情報館。これはまさにガイダンス施設なんだというものなんですが、こちらやっぱりの表紙にも、小牧市歴史館があって、では小牧の歴史、小牧市の歴史館の中の歴史って、小牧山城と小牧・長久手の戦い以外ないのか。それは確かに一番大きなメインになるんだろうけれども、僕、前回の委員会のときに、やっぱこれは歴史館だから小牧の歴史ということでどうなのかな。結局、なんか今ちょっとこの1階の1室に徳川さんの銅像と、後なんか二つぐらい小牧山の歴史や小牧の歴史があるだけでよくわからないです。例えば、実はこのれきしるこまきのこのパンフレットだけでも、史跡小牧山の歴史のところに、最後、江戸時代には尾張藩明治時代には尾張徳川家の手厚い保護を受け、と。こっちの方にはちゃんとその後の歴史も書いてくれている。本来それが、この歴史館の方にもっとあるべきだろうと。例えば、この建物って一体いつ建ったのか。なぜこんな建物になったの。誰が設計したのか、これもすごく大事なことだと思う。そういったことがすべて僕はやっぱり歴史につながっていくし、何でこんな建物が小牧山にあるのかというイメージになるんだけど、これは要するに聚楽第を模してつくっているわけでしょ。それってどっかで説明がなされるかどうか、これ自体も、僕は小牧山の歴史なんで、私は極端に強調した方がいいと思う。これを残すならばやっぱりこれが何でこういうのがあるのか、しっかりとやっぱり、押さえておかないといけない。

小牧山城が築造される前だけの歴史ではなくてやっぱりそのあとの歴史もきちっと押さえていかないといけないだろうし、この今回の整備基本計画の中にも、本質的価値、本質的価値の中にも尾張藩の留山であったとか石切丁場であったとかを書いているし、14ページには準ずる

価値として近代以降の歴史を物語る。一方では、創垂館が横に建設されたということもあって、やはり近世近代を通じて小牧には歴史があったはずなんで、そういったものもやっぱり少なくとも私は、歴史館と名を冠するのであれば何とかして欲しいなと思う。

結局、何か小牧山城と小牧・長久手の戦いしか小牧市はないのっていうことになって、僕はやっぱり、その苦肉の策で、構成の捉え方っていうのは、何か分けてしまってるんだけど、もっと歴史的なところってのはこの歴史館の中で打ち出していってもいいのかと思います。

【麓委員長】

今のご意見に対していかがですか。

【事務局（武市）】

はい。ありがとうございます。

中井委員からいただきましたように、小牧山の歴史というのは戦国時代に特化したものではない、なぜ歴史館がつくられたのかということも踏まえて、初めて来館される方にもわかりやすく紹介を、スペースの関係もございますけれども、今のご意見を踏まえまして展示をしていきたいと思います。

【麓委員長】

ということは、今回のこの実施設計の中に、今言われたようなご意見を反映させるっていうふうに答えられたのですね。

【事務局（武市）】

はい。3ページをご覧いただきますと、1階のところが、「1－1小牧の歴史に親しむ」というスペースを作っております。こちらは小牧の歴史に触れていただきたいということで、近代の小牧山につきましても、小牧山の歴史という中でご紹介をしていきたいと考えています。

【麓委員長】

だから、資料だけ見ると、今のような話が抜けてるので、休憩スペースと平松氏、徳川氏の銅像が置いてあるぐらいで、あと小牧の歴史、小牧山の歴史っていうのが、なんか四角の中に二つ書いてありますけど、そういうところに今言われたようなことをちゃんとわかるように、ここに展示するというふうに言われたんですね。それでいいですね。

【播磨委員】

一応以前ちょっとそういう話で、だから当初私はこの1－3のところに小牧の歴史がいろいろ展示されるっていうのかなという話をして、それは文化庁の方からもやっぱそういうご意見あったっていうことで、それが企画展示スペースに変わってしまったと。

私もそれをずっと思っていた。中井委員がおっしゃったこともずっと思っていたことなので。そこはやっぱりちゃんとやって欲しいんです。

今、麓委員長がおっしゃったように、この1－1のスペースでそれがはたして十分できるのかなっていう危惧があります。個人的にはやはり1－3のところをうまく利用してもらえないかなっていうことを思います。その辺が企画展示スペースに変わったっていうところで、それはそれなりの意味があるのかなと思うのですが。危惧としては1－1でそれが十分果たせるのかなと。それが十分に果たせられれば別にそれでいいのですけど。

【麓委員長】

企画展示っていうのは、これから先、ある期間、新しい企画の展示をしているということですから、何か実施設計でも企画展示のところの具体的な内容がでてきそうな気がしないんですけどね。でも、そういうスペースを広く取っておくよりもむしろ企画展示スペースがなくても、この広い空間を使って、小牧の歴史を紹介するコーナーがあった方がいいのではないかというご意見だと思うんですけど、それについては市としてはいかがですか。

【事務局（武市）】

今お話ございましたように、常設で小牧の歴史を紹介していくという考え方もございますが、今実は展示スペースということになっておりまして、できたらこの企画展示スペースは、やはり来館された方が何度でも訪れていただいて、新しいものを見ていただけるというものすごく大事なことだと思います。例えば、小牧の歴史の中で焼き物というのも重要な文化財としてあるのですけれども、例えば、焼き物を紹介しながら、小牧や小牧山との歴史と絡めてご紹介したいというところで、テーマを持って、企画を展示して行けたほうが、より何回でもリピーターの方には対応できるのかなというところで企画展示をさせていただきたいと考えています。

【麓委員長】

れきしるこまきの方の入ってすぐのところに無料のスペースで企画展示をやってるケースがありますよね。むしろ、れきしるこまきの方が、学芸員相当の方もいらっしゃって、企画展示を次々

と考えていけそうな気がするんですけど、本当に大丈夫ですかね。
気になるのは、本当に次々と企画展をやってるのかどうか、質の高い企画展をやっていけるのかというのが気になって、今おっしゃったようなことができますか。

【中井委員】
　だからちょっとさっき言いましたようにね、例えばここを常設にして、それから例えばここに企画展という形で。だから企画展の期間をそんなに長く、3ヶ月も4カ月もやるんじゃなく、普段は常設展示で小牧の歴史をやって、企画展のとき、ここのスペースを変えるとか、そうした方が現実的にやっていけるかなと思います。だから最初そういう質問をしたんですけれども。だから企画展で6ヶ月とかそういうことではなくって、ある程度常設展示を置いておいて、それで企画展を年に1ヵ月か2カ月というふうな形にされた方が、よいと思いますけれども。

【麓委員長】
　これまでも、この歴史館では、企画展示をやってたんですか。

【事務局（武市）】
　はい、やっております。

【麓委員長】
　どんな内容ですか。

【事務局（武市）】
　100名城の特集や小牧山から見える名山、小牧山の自然についての内容の展示をしたり、まつりについて企画をしたり、そういったことを展示しております。

【麓委員長】
　このぐらいのスペースでやっていたのですか。

【事務局（武市）】
　はい。

【麓委員長】

それがあるから、そういう場所を改装後も残しておきたいということなんですか。

【事務局（武市）】
はい

【麓委員長】
ということなんですけれども。

【中井委員】
2階の2－4の地形から見る戦略戦術、これも要するに、直径50キロメートルの航空写真をおそらく円形に置かれる。それから、4階の4－2の小牧山城からの距離ということで、今度は直径60キロメートルの円形の航空写真を置かれる。この何か違いというのは何かあるのですか。同じような円形の写真が置いてあるのだけれども。

【業者（六川氏）】
こちらは両方で検討を進めていたのですけれど、ゆくゆくは2－4の50キロメートルの範囲が一番適切かと思っています。ゆくゆくは2階で見れる航空写真を4階でも見れるように、それは統一していきたいと考えています。

【中井委員】
せっかくだったら、小牧・長久手の戦いのときに、例えば、二重の堀を掘って、結構すごいことを実際やっていて、陣に改めたりもしている。それこそ地形からではなくて、まさに信長公記に書かれてるような、配置図というか、豊臣方と、信雄・家康方のあり方っていうのをこの航空写真の中に入れていくっていうのは、非常に面白いと思います。ただ、何かがありましたではなくて、小牧・長久手の戦いに特化したものが割と復元できる。それはやられたらいいと思う。ただ単に距離的にどういうものがありますだけで、眺望的にいうことだったら、それでいいと思いますけれども。

【業者（六川氏）】
ありがとうございます。

【麓委員長】

2階は、特に小牧・長久手の戦いに焦点を置くんでしょ。

【業者（六川氏）】

2階のところでは、ソフトを3つ用意しようと考えておりまして、特にソフト2とソフト3のところについて、ソフト2では、信長と小牧山ということで、美濃攻略を目指していた信長がどういう理由で小牧山に移ったのか。河川があったりとか、そういう内容を立地から見ていけたらとよいかなと考えております。ソフト3については信雄・家康と小牧山ということで、こちらが先ほどおっしゃっていただいたように小牧・長久手の戦いに特化したソフトです。今、資料に落とし込まれていない検討の内容としては、直径50キロメートルだと、少し遠すぎる場合もあるかと思いますので、どちらかというと、映像の中で必要に応じて、例えば寄ったりとか、少しひいたりとか、というのを工夫を凝らして、例えば、砦のところでよりここを見たいという場合に紹介するときは50キロメートルとは限らずに、直径20キロメートルから10キロメートルの間で説明をしたり、ひきのところで全体像をご紹介するときにはまた直径50キロメートルに戻したりと、工夫していけたらと考えています。

【麓委員長】

小牧・長久手の戦いは、信雄と家康の本陣が小牧山に置かれたけども、あくまでも、戦いですから、秀吉方の本陣であるとか、どこでどんな戦いが行われたかっていうことがわからないと、小牧山だけの本陣、小牧山に本陣が置かれたという、信雄・家康方の本陣が置かれたっていうだけでは説明ができないんですよね。そういうことも含めて、さっきの50キロメートルの半径の中に、もう少し小牧・長久手の戦いそのものが、どのように行われたのかっていうことを、わかるように設定した方がいいという話だったと思う。

【事務局（武市）】

2階と4階の円形の違いとして、この2－4の地図について、今考えているのが、現在歴史館の2階にある解説板は距離が変わらない形での解説になっていますが、これをプロジェクションマッピングにすることを予定しております。これにより、距離の調整ができるため、大山の秀吉の陣とか、距離を大きく説明したい場合は、それを映し出せる。逆に小牧と岩崎山砦のように、近い場合だと、距離を縮めて解説する。さらにもっとこう砦の配置についても寄って、映し出して説明する。場合に応じてそういった映像で地形を映し出していき、縮尺を変えて解説する予定をしております。

【麓委員長】
　それで、要するに、小牧・長久手の戦いにおいて、いかにその小牧山が信雄と家康軍の重要な拠点であったかっていうことを、正しくわかりやすく解説するわけですよね。

【事務局（武市）】
はい、そうです。

【播磨委員】
　細かいことをあまりは言うつもりはなかったのですけれども、今の話でいうと、どうしても小牧・長久手の戦いというのはイメージはほとんど長久手の戦いなんですよね。小牧山城におけるやっぱり意味というのは、その犬山城で相対したしたときにここでいろいろ戦いをしてる。だから逆に小牧での展示っていうのはそういうところも少し強調したほうが。それはもう実際4階に上がってみたら、あそことあそこでそうやって戦ったとかそれがものすごくわかると思います。だからちょっとその辺は強調したほうがいいのかなと思います。
　今ちょっと言われた説明でやっぱりちょっと引っかかるのが、細かいことだと思ったが、小牧山城をつくったっていうのは岐阜に攻めていくという前提とお考えですがそうじゃなくって、やはりこの尾張支配の拠点でつくったのですがそこに、非常に本格的な城下町と城づくりをしている。それが結果的に、その美濃との戦いであるとか、それから足利義昭からの要請がある。それから、正親町天皇の方から輪状をもらって、そういうことがあるんで上洛をしていくので、それがちょっとこれは昔からの歴史で信長はもう最初から上洛志向があって、尾張から岐阜に行って上洛するという、ちょっとそういう前提じゃなくてむしろそうじゃなくって、この小牧山っていうのは信長が尾張支配の拠点として。それが石垣のある城であるとか城下町が出てきて、よりそういうふうな意見が強くなってるんですよね。だからむしろそれは小牧としてはその方を強調する方がいいんで、相変わらず、昔からの臨時の城みたいな、そういうとらえ方はちょっとやめたほうがいいんじゃないかなと思います。

【麓委員長】
　それはさっき言った2階の半分の信長の方、階段上がってすぐの２－０と２－１、この部分ですよね。今お話しされたのは。そして２－２と２－３は小牧・長久手の戦いとなっている。その辺が今の段階で、展示内容をこうしますっていうところまでは煮詰まってないので、これを8月末までに固めた上で、そして、やはり播磨先生であるとか、或いは、その築城の関係では中井先生とか、私とか。そういう内容見てもらった方がいいですよね。その検討をどの段階でやるか。例え

ば、今度は10月から展示制作業務の委託期間となって、実際に作成をする期間で、10月の中旬ごろに、専門委員会を行って、そこで検討ということになっていますけど、その段階で間に合うのか、或いは委員会として開催しないで、改めてこういうコンテンツで作っていきますっていうことを、委員に資料を送付して、チェックを受け、というようなことをしながら進めていった方がいいかなと思います。

播磨先生も、今あんまり細かいことは、言わないでおこうと思ったとおっしゃってましたけれども、あんまりそこまでいえるような資料も作成されてないので、その次の段階で、やっぱりどこかでちゃんと検証してもらわないと、従来の説のままで、今はこういうとらえ方してないっていうことになるといけませんのでね。それは10月ぐらいまでにかけて、もう少し具体的な内容が出てきてから検討するということで、それはいいですかね。

【中井委員】

今の播磨先生のご意見もすごく重要で、どちらかといえば私はれきしるこまき側で、これは今までの築城と全く違う石垣が出てきたとか、石垣の構造がこうだというところなのですが、やっぱり、文献っていうのが歴史の方から言うと、今の単なる美濃攻めのための拠点なんだとかっていうのは、逆に言うと、この小牧山にとってはすごい重要な話が、結局は美濃の国を手に入れるみたいな形になってるところってのは、やっぱり注意すべきだ。この小牧山の持つ歴史の重要性みたいなのはやっぱり播磨先生に是非ともそれはチェックしてもらわないと、従前の歴史観のみでやられてしまう。

一方で発掘調査では、従前とは全く違う城づくりっていうのが実際に小牧では出てきてるわけですから、それについては、れきしるこまきで展示されている。一方でそういう最新資料があるのに、一方で、従前の信長像のものが歴史館の中で使われるというのは、やっぱりすごく残念なことだと思うので、これはもう播磨先生、是非ともそれを見てもらわないといけないと思います。

【麓委員長】

それが充実してくれば、れきしるこまきと歴史館との違いが、より明確になってくるかなという気はしますけど。

中井調査官はどうですか。

【中井調査官】

前回もお話ししたこと等の延長ですけども、小牧市の歴史的なコーナーを是非ともつくって欲しいという。規模感は、あまり言いませんでしたけど、今日委員の先生方言ったように、なるべ

く多く評価して欲しいってありますので、その辺の1階のところはちょっと検討していただいて。

この前市長さんと話しましたけれども、やっぱり体制的なものも、なかなか十分にできない中で、この企画展をたくさんやったり、二つの館を運営するっていうのは、本当に持続可能かなって思ってしまうので、あんまり無理されなくてもいいと僕は思うんですけどね。だから常設展の中で、播磨先生がおっしゃたように途中でちょっと、例えば発掘速報展をみたいなことをやったり、歴史とは関係のない自然のほうを紹介するとか。その間に入れるという程度のことで、少し常設展示の部分で何か紹介しなきゃいけないことが、さっきから聞いてますといろいろあるので、そういったものを入れるエリアとしてのものにしてもいいじゃないでしょうか。最初からなんか、人がいなくて大変ですっていう前提なのに頑張りますっていうのは、、、。ちょっと近々になるんですけど、そんなふうにしてもいいと思います。

それから、小牧・長久手の戦いの方もリニューアルされるということで、、、。

【事務局（武市）】

一部映像の解説を入れたいというふうに思っております。

【中井調査官】

それはこっちのものとダブルのですかね。歴史館の人も見れるということですか。その違いがよくわかんない。

【事務局（武市）】

大きくは、「小牧・長久手の戦いについての解説」としては一緒となります。

【麓委員長】

一緒じゃないでしょ。

必ずしも上に上がってから降りてきてれきしるこまきに入って来るわけじゃなくて、まずれきしるこまきを見てから上に上がってくっていう人も多いので、れきしるこまきで、少し小牧・長久手の戦いに関する概要を展示する部分があって、メインは歴史館の2階のところに書かれているというのが良いのではないでしょうか。

【中井調査官】

そのような形ですのでそれで、あと細かいところはお任せしますけれども、その違いがよりはっきり、違いがはっきりわかることがちょっと私としては、二つは存在意義っていうものを説明す

るためにも。

【麓委員長】

今日のご意見をまとめますと、特に1階部分の小牧の歴史を、やはりもう少し、企画展のスペースも含めて、充実させた方がいいのではないかということ。2階については、信長の築城から、小牧・長久手の戦いに関しては、歴史学の進展に伴って、新たなことがよくわかってきているので、そういうものを反映した最新の情報を伝えていただきたい。それは内容が固まった時点で、チェックをしていくということで、それでいいですかね。

では、議題はこれで終わりたいと思います。

次に、次第ではその他がありますが、事務局どうぞ。

【事務局(武市)】

ありがとうございました。今日の審議事項を踏まえまして、今後の専門委員会につきましては、次回10月開催させていただきまして、先ほど議題にも上っておりましたけれども、具体的な展示の内容やグラフィックについての制作の方を進めていく段階で確認をしていただくということでお願いをしたいというふうに思います。詳細につきましては、後ほど照会をかけさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【麓委員長】

確認ですけど、成果図書が8月末にトータルメディアから成果品として出てきますよね。それはどのぐらいのボリュームのものですか。

【業者(斎藤氏)】

今日お渡ししているようなコンテンツをまとめた資料、こういったものが展示説明資料として成果図書に入れさせていただく予定をしております。それに加えまして、展示の電気、照明、映像関係の図面やシナリオといったものが入ってきますので、ボリュームとして何枚かというのは難しいのですが、そこそこボリュームとしてはあると思います。

【麓委員長】

では、そのすべてじゃなくてもいいので、一番関心のある1階の展示がどうなるのかっていうことと、2階の信長と小牧・長久手の戦いのところがこんなふうになりますっていう、その部分だけでも1度、固まった段階で委員に送っていただくと助かります。次の専門委員会でいきなり、そう

いうものを見て、こんなはずじゃなかったっていうことになるといけませんので、それを送っていただいた方が、中井調査官も見ていただけるのでしたら送っていただいたほうがいいと思います。

【事務局（武市）】

はい、ありがとうございます。送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、委員の皆様ありがとうございました。本日の議事日程は、全て終了いたしました。慎重な審議をいただきましてありがとうございました。

これをもちまして、令和4年度　第2回史跡小牧山整備計画専門委員会を閉会いたします。